

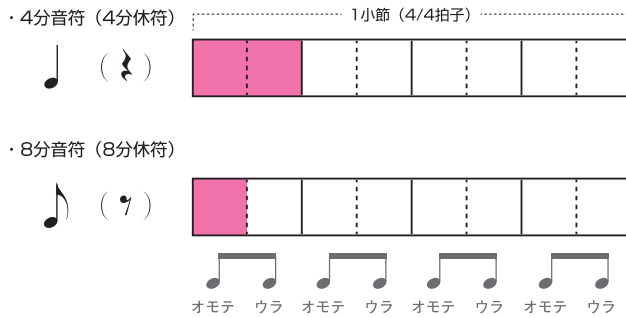
【注意点1】



8分音符の長さ
拍子の種類を確認せよ

ここでは、メイン・フレーズを構成する“8分音符”について解説しよう(図1)。8分音符は、4分音符の半分の長さになっていて、ロックでよく登場する“8ビート”というリズムの土台となる音符だ。4/4拍子の1拍(4分音符)の中には8分音符がふたつ入るが、1音目を“拍子のオモテ”、2音目を“拍子のウラ”と言うので覚えておこう。

図1 8分音符と8分休符の長さ



※各音符のひとつ分の長さを表している。

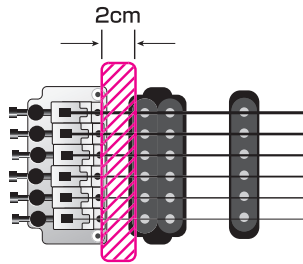
【注意点2】



重低音を生み出す重要技
ブリッジ・ミュート

メイン・フレーズで使用するブリッジ・ミュート(Mute/M)とは、右手の側面でブリッジ付近の弦に触れて、弦の振動を抑えるテクニックとなる(図2&写真①)。弦に触れる力加減によってサウンドが変わってくるので、右手の力の入れ方をいろいろ研究してみるとよい。ブリッジ・ミュートを的確に使って、重低音を出してみよう。

図2 ミュートの位置



ブリッジから
2cm付近までに触れる。



1 右手の側面を使って、弦の振動を抑えよう。力加減を調整しながら、サウンドに変化をつけることも大切だ。

【注意点3】



直前の指は離すべからず！
運指の基本を学ぼう

メイン・フレーズ2小節目1拍目の5弦5フレット(薬指)時には、直前で3フレットを押さえている人差指を離さないようにすることが大切だ(写真②)。この時、人差指が離弦していると、薬指の押弦が甘くなったり、そのあとの運指が乱れることがある(写真③)。直前の指の押弦をキープすることは、スムーズな運指を実現させる上でのポイントになるので、覚えておこう。



2 メイン・フレーズ2小節目1拍目。5弦5fの薬指の押弦時に、人差指は3fを押さえておこう。



3 5弦5fを薬指で押さえている時に、人差指が離弦していると、スムーズな運指ができない。

【弦に触れる力加減】低音弦リフを演奏する時の力加減は、“触れている”と“押さえつけている”の中間くらいがお勧め。低音感とアタック感が両立するサウンドを目指そう。